

シラバス

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員	橋本真奈美		
配当年次	2年次	開講時期	2学期
単位区分	選択	単位区分補足	
授業形態	講義	単位数	2単位
準備事項	テキスト、配布資料を熟読してから講義に臨むこと		
備考			

【授業のねらい】

子どもが持つ二つの権利を理解したうえで、子どもの健やかな生活や安心できる教育環境の保持に欠かすことができない児童・家庭福祉の役割と母子保健の重要性を理解する。また児童福祉の生成について歴史的視野と児童観の変遷を学ぶことで、現代社会に求められる子どもの最善の利益について理解を深めることを目的とする。加えて児童・家庭福祉に関係する法制度の理解と現状の理解を通して社会福祉士の役割について理解する。これらを通して子ども・家庭及び妊産婦に対する生活課題の支援について具体的に学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 児童、家庭の定義と家庭の子どもに対する役割の理解。子どもが持つ二つの権利を理解する。
2. 児童・家庭の生活実態を社会からの影響という視野ととらえる。それらを通して問題の把握をする。
3. 児童観の変遷と児童福祉の理念を理解する。加えて児童・家庭福祉の法制度の発展過程を理解する。
4. 児童福祉法や児童虐待防止法に代表される児童・家庭福祉の法制度を理解する。
5. 家庭の中であって見えづらい虐待やいじめ、家庭内DV等の現状と社会的養護の必要性を理解する。
6. 児童虐待防止と家庭内DVに対する児童相談所の役割や里親制度、障害児支援等について理解する。
7. ひとり親家庭の現状を理解したうえで、ひとり親家庭の支援に関する法制度の概要を理解する。
8. 社会手当という側面を持つ児童手当や児童扶養手当等の役割とそれらを実現している制度の理解。
9. 子どもは次世代社会の担い手であるという認識の確認と、少子化対策の諸制度を理解する。
10. 就学前の子どもに対する、子ども・子育て支援に関する法制度の理解と教育と保育の重要性の理解。
11. 児童・家庭に対する支援における関係機関等の連絡調整の重要性を理解する。
12. 児童・家庭に対する支援における国、地方自治体、コミュニティの役割について理解する。
13. 児童相談所の役割や関係する専門職の役割理解と、ソーシャルワーカーの役割について理解する。
14. 保護が必要な子どもに対する具体的な支援の場におけるソーシャルワーカーの役割を理解する。
15. ひとり親家庭や貧困問題の渦中にある家庭への支援や就労支援、若者への支援の必要性を理解する。

【履修上の注意事項】

テキスト、配布された資料は必ず持参のうえ講義に臨むこと。

スマートフォンを机の上に置いたままの受講は認めない。

積極的な受講姿勢を保つこと、教員から質問されたときは自分の受講姿勢を示す場として活用すること。

【評価方法】

学期末に実施する試験：70%、レポートの提出とその内容：20%、受講態度 10%

【テキスト】

『児童・家庭福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版（最新版）

【参考文献】

適宜、指示をする。